

## キミたちがいてボクがいる

下呂市教育委員会 教育委員 三木朋哉

「キミたちがいてボクがいる」、これは2021年に亡くなられた、芸人のチャーリー浜さんのギャグです。この言葉には、私たちがなかなか気づけない、人と人との関係性の本質が表現されているように思います。それは、「ボク」という存在は、「キミ」という存在があることで成り立ち、そして同時に、「ボク」もまた「キミ」を成り立たせる存在であるということです。

私はこの言葉から「自己存在感・肯定感」と「自己有用感」という語を想起します。「自己有用感」は文科省の国立教育政策研究所のHPでは、人の役に立った、人から感謝された、人から認められた、という「自己有用感」は、自分と他者（集団や社会）との関係を自他共に肯定的に受け入れられることで生まれる、自己に対する肯定的な評価と定義され、そして、社会性の基礎として「自己有用感」に裏付けられた「自尊感情」が大切と結ばれます。ここから「有用」とは、冒頭の「役に立つ」という要素を根幹としていると考えられます。はたして、このような「有用」性がなければ、他者を認め、なにより自分の存在を肯定することはできないのでしょうか。

過去現在、そして未来にも、私という存在はただ一人であり、誰も代わりがきかない。その事実がすでに尊いことであるのに、そこに役に立つ・立たないという基準が付加したとたんに、役に立てば認められ、役に立たなくなれば存在意義がなくなってしまう。現代に定着している「人材」という言葉は、このような価値観の下で人間を代替可能なものとみなす謂いなのでしょう。

教育は「人材」を生み出すものではないはずです。役に立つ・立たないという価値基準を超えて、他者に支えられて私がただ・・・いるという事実が、また誰かの存在を支え成り立たせている。そのような自己存在への気づきこそが、真に「自己有用感」たりえるのではないのでしょうか。

## 思いやりと支援に感謝

白川村教育委員会 教育委員 森崎 雅樹

この徒然日記の場をお借りしまして私事ではありますが息子のことを執筆させていただきます。

私の息子には障がいがあります。障がい児として地元の保育園に入園し、その後は小学校、中学校と入学をして卒業までお世話になりました。入園入学の際は、行政や教育委員会に大変お世話になり感謝しております。保育園での生活や、特別支援学級を設けていただいていたので学校生活は大変充実しており、入院通院以外は、必ず登園登校をするほど、息子にとって保育園や学校は、毎日笑顔で過ごせる大切な楽しい居場所だったのだと思います。

学校生活では、特別支援学級と通常学級の行き来をしながらの授業を受けさせていただきました。そんな中での息子の一番の理解者は、同級生の仲間でした。彼らの息子に対する思いやりは、保育園から共に過ごしてきたからこそその理解あるあたたかい関わりでした。息子も同級生と居ることがとても大好きで、安心して楽しく過ごしていました。

車いすでの生活ではありましたが、先生方や同級生の仲間に助けられ、様々な行事にも多数参加することが出来ました。小学校では、遠足や運動会、更に水泳の授業やスキー教室にも参加することが出来ました。「できることは、みんなと同じことを一緒にやってみよう」との先生からの提案を受けて、同級生の仲間も関わりながら授業や行事などを工夫して考えてくださいました。運動会では、選手のひとりとして活躍できる方法を種目ごとに考えてくれたり、グラウンド内の移動も気づいた仲間がやさしく車椅子を押してくれたりするなど、常に仲間と一緒に活動することが出来ました。水泳の授業では、プールの中で息子の周りに近づくときは、波を立てないように気を付けながらも一緒に活動できるようサポートしてくれました。

このような先生方や仲間の配慮により、息子はみんなと同じ場で同じ経験を共有し、仲間と共に同じ楽しさを味わい、同じ悔しさを感じ、同じ喜びを得ることが出来ました。本当に素晴らしい先生方と同級生には今でも感謝しております。息子の可能性、できるという観点から色々なことを経験させてもらい、大きく成長させていただきました。

日々の学校生活や授業の進め方など障がい児に対する対応を親身になって考えてくださる先生方。息子を思い、いつもあたたかく接してくれた同級生の仲間たち。今思えば、これは私の息子が障がい児だったからの対応やあたたかさなのではなく、ひとりの生徒として、ひとりの同級生としてあたりまえのことだったと考えると、現在の白川郷学園の先生方や子どもたちの姿もあの頃と変わらず、個々を大切に、仲間を大切にしていることが目に入ってきます。

このあたたかい白川村の教育がこれからもずっと続くよう、わたしも教育に携わるひとりとして少しでも力になればと思います。きっと息子も私の背中を押してくれているはずです。